

令和7年度 神奈川県立横浜ひなたやま支援学校 第1回学校運営協議会 開催報告
本校の学校運営協議会を次の通り開催しました。

審議会等名称	神奈川県立横浜ひなたやま支援学校 第1回学校運営協議会	
開催日時	令和7年5月27日(火) 9時30分～11時40分	
開催場所	横浜ひなたやま支援学校 会議室	
出席者	学校運営協議会委員 8名 学校事務局8名 (2名欠席)	
問合せ先	横浜ひなたやま支援学校 副校長 岩田 みゆき 電話 045-300-5611	
掲載するもの	議事録	議事概要とした理由
審議・会議経過		
1 開会		
2 学校運営協議会		
(1) 会長挨拶 運営する事業所について。子どもの育ちへの責任と興味を持ち続けている。		
(2) 副会長挨拶(本校 見目校長)	<p>自己紹介。125名の生徒数でスタートしている。先月は修学旅行、今月は宿泊学習があった。来月は校内実習がある。先日作業でお庭の掃除に伺った。お礼の手紙を届けていただいた。今後も地域との関係作りを進めていきたい。創立13年になる。ひなたやまらしさを継続、発揮していくためにも忌憚のないご意見を伺いたい。</p>	
(3) 委嘱状交付		
(4) 自己紹介		
3 学校評価部会(司会 会長)		
(1) 高等部3年生徒発表「修学旅行の思い出」		
(2) 令和7年度学校評価目標設定について、副校長より学校評価システム、学校運営協議会の関係について、および学校経営方針、グランドデザインについて説明。	<p>各グループより、今年度の目標、具体的な方策、評価の観点について説明。</p>	
(3) 質疑応答		
<u>委員</u>	<p>カスハラ対策が義務化され、研修を行っている。お客様と距離が近いためスタッフがカスハラを受ける場合も想定されるが、こちらからカスハラ行動にならないように研修している。相手がどう思っているか感じ取れないスタッフもあり、学校でどんな学習をしているか。</p>	
<u>学部L</u>	<p>マナーやハラスメントについて、職業やコミュニケーションの授業で扱っている。できること、やってはいけないことを伝えている。ハラスメントについて調べ学習もしている。作業や小集団の活動で、相手にどう伝わっているか考えさせている。自分たちで気づくことが大事。</p>	
<u>委員</u>	<p>働き方改革はわかるが、仕事はムリムダムラもある。その中で人間性もあり、それが喪失していくことが心配。このところ公園にゴミを捨てる子どもがいる。社会的な常識を身につけてほしい。</p>	
<u>委員</u>	<p>ライフスキルチェックシートは活用されているか</p>	
<u>教務GL</u>	<p>活用しているが、ライフスキルチェックシートの見直しも考えている。</p>	

委員

対話的で深い学びを推進してきた時期もあったが、シチズンシップ教育に流れていっている。相手が何を言っているのかわかるように、対話の積み重ねが大事と考える。自己実現に向けての1つの方法として重要なキーワードと考える。

委員

作業学習を立ち上げるにあたり、何を期待されていてそれに生徒自身が自分なりにどう答えていくかという視点作りをするためにパンや印刷、清掃をコーディネートしてきた。本物を使い、お金のやりとりもしていくことが社会に出る入口の1歩であり、それをもって地域の人とコミュニケーションを取ることで、お客さんに喜んでもらうためには自分なりにどんなレベルで取り組むべきなのか考えるために設定した。学校で先生方が生徒に働きかけ学校が楽しいと思えること、それは人との関わりの中でできたことである。最近の進路選択に就労移行や自立訓練という学び直しという選択肢が出てきたが、その後の結果も見ておく必要があると考える。社会に出たときにどういう相談機関があるかを知ることや、どう相談していくのかという力をつけておく必要がある。高等部3年間で自分をどういう風に扱ったらよいのか自分の取説を本人、保護者、先生で作ってほしいと思う。3年で人生が決まるわけではない、先生とよく相談しながら進めて欲しい。選択肢は1択ではない。卒業後も一緒に作っていけるような相談先を見つけて欲しい。先生たちも何を期待され、どう答えているか考えながら取り組んで欲しい。

委員

子どもも一緒に思っている人は期待されたり信頼されたりすることが必要。学校も地域から大事にされたい、学校も地域を大切にする、そうすることで地域での子どもたちの経験が充実していく。ひなたやま支援は地域と繋がりながら子どもを育てていこうと思っていることがよくわかる。地域と繋がっていこうとすることは大変だとは思うが大事にしてもらいたい。センター的機能の対象は小学校の子どもや保護者も対象になるか。進路について悩む保護者もいる。保護者が相談できる場があるとよいと思っている。

※センター的機能について

地域の幼稚園や保育所、学校等に在籍する子どもたちが、必要な支援と適切な指導を受けながら学校生活を送ることができるよう、一人ひとりの教育的ニーズに応じた学習環境の整備等、校内支援体制づくりを支援（県教育委員会）

その他に外部向けの講座（研修）を実施したりしている。巡回相談を受けているので依頼していただければと思う。

委員

進路については保護者が考える前に市の教育委員会が聞いてくれる。早めに声をかけてくれるので相談で悩んだことはなかった。中学校も相談を受け入れてくれた。学校を通してなると思うが、連携がとれたりすると保護者も安心するのではないか。

委員

お互いに協力を続けていけるとよい。

（4）不祥事ゼロプログラム（副校長）

毎年取り組んでいる。生徒が安全に通い、保護者が安心して送り出せるようにする。担当が主催して毎月不祥事ゼロプログラム研修を実施していく。「同僚性を高める」「認め合う」「支え合う」「褒めあう」を大事にしてやっていく。研修もコンパクトにし、やりとりをしながら行う。

4 切れ目ない支援部会

これまでの取組みと令和7年度の取組みについて、地域を大事にして地域からから大事にされるよう取組む。ガパオ祭に力を入れていきたい。草むしりの活動について、昨年度9月ご依頼いただいたお庭の掃除については、ポスティングしたら再度ご依頼いただいた。その日のうちに手紙をいただいた。励みになった。HPでも紹介させていただく。

連携支援 GL より紹介（手紙内容）

「昨年の秋、庭手入れをしていただいた、ジャングルの庭の手入れに大感謝。ポスティングがあり、天の助けと思い再度お願いした。草取り作業1時間ほどしていただき、大変助かった。汚れ作業にもかかわらずもくもくと作業している姿を見させてもらった。」

委員

昨年も話をしているが、労働の対価が学校教育でも必要ではないか。責任感を生むと思う。就職した後に、長く働くためには、何にお金を使っていくか学ぶことができる。ワンステップになるのではないか。

委員

学校は、いろいろな人に評価されるということで押されたが、お金をどうやって使っていくのかは別の授業で学んでいると思うが。

委員

学校は、公的なことでしかできない。以前、法被の洗濯をしていたが、プロではない、売れる技術があるわけではない。かかった材料、洗剤だけいただくことをしていた。労働対価としてはもらわない。ともしひ基金で、寄付にすることもあるが、公金の扱いは難しい。

委員

以前、サロン井戸端で、コーヒー代など、まなびや基金へ寄付となっている。草刈りをやっていただいた家庭が寄付するのはだめか。自主的な寄付でうまく循環できないか。個人はできないが、学校へという形ではどうか。

教頭

以前より、委員の方に示していただいた方向性できている。引き続きこの形が妥当かと考える。

<地域防災部会>

委員

地域防災拠点になっているのはひなたやまだけ。一番小中学校と違うのは、生徒と地域の方が一緒に避難となること。人のやり取りが直通でいかない。校長が施設長になる。運営委員が、行政、消防など50～60名となる。体育館が避難所、1階ふれあいルームなど使用。実際起こってみないとわからない。3.11の時も結果的にこの場所は残った。夏季公開講座の先生にも地盤は強いと言われている。備蓄庫がありそこに水など入っている。困らないように管理している。夜間訓練もしている。駐車場の下貯水池ある。プール前にはまっ子トイレを設置予定であり、直接、下水管に流れる。プールの水がまっ子トイレで使えるか心配している。

総務 GL、副校長

シェイクアウト訓練が年4回9月、11月、1月にある。避難訓練も年2回あり、6/23、10/6を予定している。評価者になって地域の人に協力していただきたい。その他、11月下旬に避難所体験のお手伝いをお願いできたらと考えている。8/22（金）13時からの夏季公開講座のチラシがある。用意でき次第配付予定である。自治会、小学校と共同開催、横浜市内該当地域、大和市などへも案内していきたい。

<閉会>

事務連絡 今後の予定日程表の確認。第2回 10月28日（火）予定。

校長

校長として、気にするのがどのように地域からみられているか。地域が違えば、学校への期待感が相当違う。13年目の若い学校であり、開校当時の熱い思いを聞いて学校としてのミッションがわかった。特徴は、以前小学校であったことで期待感が他の県立の特別支援学校とは違う。縁あってのつながり、我々の成長も含め、お互い様の部分はある。引き続き関係を築いていきたい。